

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	ビジネス実務 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美・キャリア
時 間 数	前期：47 時間／後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。 そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容とする。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	・ 入学時から就職を意識し、「働く意味」を理解させ、自己分析を行っていく。 ・ 社会人としてマナーの必要性を理解させるため、業界での必要とされる人材を意識させ、ロールプレイングを取り入れ、実践させていく。		
そ の 他	時事問題に触れる時間を、積極的に取り入れる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	・ 学校行事に全力で取り組む。 ・ キャリアの授業を取り入れ、働く意味を知り、自己分析を行っていく。 ・ 社会人としてのマナーを身に付け、実践していく。		
到 達 目 標	・ 明確な個人目標設定ができ、それに向かって努力ができる。 ・ マナー・礼儀を身に付け、社会人としての判断ができる。		
成 績 評 価 方 法	前期試験（95％）、出欠席（5％）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	① ビジネスマナー基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター） ② 就職活動ワークブック（日本能率協会マネジメントセンター） ③ プリント		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	健康科学	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	伊丹 稔博
時 間 数	前期： 時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	生涯にわたるスポーツの役割を正しく把握し、子ども一人ひとりの健全な育成をサポートする指導者として、スポーツに関連する専門知識を養う。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	レポート・科目終末試験の合格を目指す。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	講義を中心に、テキストの解説を行う。 スポーツを通して様々な効果や能力を得ることができ、それらを幼児期から体験的に学習できる環境を整えていくことが子どものこころとからだの成長を支える指導者として必要であることを知る。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	・ 現代社会におけるスポーツの意義と課題について ・ スポーツの概念の移り変わりについて ・ スポーツ活動の現状について（余暇・地域・学校・職場） ・ 健康概念の変遷と WHO の健康の定義について ・ 健康阻害要因とスポーツ運動の効果について ・ 幼児期の体力づくりの在り方について ・ 運動処方における運動の条件について		
到 達 目 標	・ レポート、科目終末試験の合格を目指す。 レポートは、勝利至上主義と商業主義の意味を理解した上で適切な記事を選択し、スポーツに対する自分の考えを述べる能够做到ている。		
成 績 評 価 方 法	近大科目試験		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	「生涯スポーツ・健康科学」 著者 鐘ヶ江 淳一 編集兼発行者 通信教育部 発行所 近畿大学九州短期大学（2012）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	生涯スポーツ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	石田 博也
時 間 数	45 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	卓球、バスケットボール、バレーボール、バトミントンなどの技能の向上を目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的・社会的背景について理解を深める。		
目指す検定・資格	特になし。		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	幼児期および青年期における運動やスポーツの意義や果たすべき役割を理解するとともに基礎的な技能を習得する。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	各種スポーツ（バレーボール、バトミントンなど）の技能向上を中核目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的、風土的、社会的背景についての理解を深めていきたい。 さらに「生涯スポーツ」の理念の理解を推進していく上での課題を、現代スポーツ現象（勝利至上主義・商業主義）を批判的に検討する中で明らかにしていきたい。 現代のスポーツにおけるリスクマネジメント（けがの防止、応急処置）も同時に学んでいく。		
到 達 目 標	子ども及び障がい者などあらゆる人を対象とした運動、スポーツ活動に関する基礎的な技能を習得する。 また、その中でスポーツ活動のレパートリーを増やす。		
成 績 評 価 方 法	授業中に提示する課題レポート 単位修了試験（発表や実践）		
テキスト・副読本	配本テキスト 参考文献：厚生労働省『保育所保育指針解説書（H30 年 3 月）』フレーベル館 随時、資料を配布する。		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	情報処理入門Ⅰ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	中上 篤
時 間 数	前期：15 時間／後期：15 時間	実務経験：システムエンジニアとしての勤務経験を活かし、学生がコンピュータに関する基礎的な知識を理解できるように講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	基本的な情報処理用語からパソコン操作までをスムーズに行える。 実習課題を中心に用語や操作を習得する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	サーティファイ Excel 検定 3 級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	パソコン操作の苦手意識を無くし、職務が活用できるようになってほしい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	表計算ソフト(Microsoft Office Excel 2016)の基本的なしくみと特徴（計算・グラフデータベース等）を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。		
到 達 目 標	表計算ソフトの基本機能と操作方法を習得する。 サーティファイ主催 Excel 表計算処理技能認定試験 3 級 の取得。		
成 績 評 価 方 法	実技評価（80%）、課題提出（10%）、授業態度・出欠席（10%）		
テキスト・副読本	実教出版 30 時間マスター Office2016		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	日本国憲法	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 通年	担 当 教 員	鳴坂 圭介
時 間 数	30 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本国憲法は、国の基本法として日本の政治と国民生活の基本的なあり方を指し示したものであるから、憲法がもっとも大切にしている原理・原則は何か、そして、その原理・原則を実現するための政治のしくみはどうなっているかを体系的に学習する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	保育士・幼稚園教諭		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	憲法学は覚える学習ではなく、常に問題意識をもって自らの認識と考えを持つ学習でなければならない。そのためには、まずは関係する憲法条項を必ず参照しつつ、その意味内容を理解し、そこでの問題としてそのような問題点があるかを認識すること。時事ニュースを取り込みながら憲法が身近に感じられるようになってほしい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	日本国憲法制定までの歴史的背景をもとに日本国憲法の概要を理解したうえで、国民主権・基本的人権・自由権・社会権について考える。 平和主義と自衛隊・三権分立・地方自治について考え、最終的に他国の憲法との比較を通じて、日本国憲法へ学生個々の考えを広げる。		
到 達 目 標	憲法が求めている“日本の姿”と現実社会との間にいくつかの矛盾や問題があることに気づき、それらの矛盾や問題をひとりの国民としていかに考えるか、そのリーガルマインドを養っているのが到達目標。		
成 績 評 価 方 法	後期期末試験（95%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	日本国憲法 近畿九州短期大学		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	幼児と音楽表現	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	井上 美樹
時 間 数	15 時間	実務経験：音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	声楽の基本と読譜力を付けることを主とする。 ピアノ、声楽などに必要な音楽の理論の基礎を学ぶ。 感性を育む音楽鑑賞についても学ぶ。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	声についてイメージを深め、発声法や表現法を習得する。 器楽（ピアノ伴奏）の基礎的な演奏法を理解し、演奏技術の向上を目指す。		
そ の 他			
授 業 の 概 要	子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし音程の感覚を養う。 楽曲の作品解釈を行い、音楽表現の向上と音楽方法についても検討する。 （個人レッスンとともに全体での体験的な学びを実施する。）		
到 達 目 標	歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法の基礎を習得する。 教育現場で必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やす。		
成 績 評 価 方 法	実技試験、授業への積極的参加、課題		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト：「音楽＜声楽教本＞」「音楽＜ピアノ教本＞」 「子どものうた 100 選」 参考資料：授業中に適宜資料を配布する。		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	教育心理学	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	光井 麻理
時 間 数	15 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	本講義は、特に幼児期を中心に、生涯（特に青年期まで）にわたる変化の理解に向けて、子どもの発達（育ち）と学習（学び）の過程を学ぶことを目的とする。		
目指す検定・資格	特になし。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	教育者として、子どもを取り巻く環境を理解し、子どもとかかわる手立てを学ぶ。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	こどもの成長の過程で見られる事象は個に閉じた事象ではなく、取り巻く環境に支えられていることも見逃せない。 多様な子どもたちが多様な環境の中で何をいかに学び・育ち、またいかにそれらの場で「躓き」の体験をするのか、またその場に居合わせる大人としてできることは何か、多様な例を通じて考え進めていく。 教育現場で必要となりうる心理学の基礎概念と基礎知識の習得を目指す。		
到 達 目 標	子どもたちの最も近くに居る者の一人として、子どもが学び育つということの意味を学び、子どもへの関わり手としての基礎的な態度を養うことが主題である。 そのために ①発達論、学習論の基礎的知識を修得し、 ②幼児期にある子どもの生活を、理論的に捉えて支え、学びと探求を十全に展開させるための基本的な態度の基礎を形成することを到達目標とする。		
成 績 評 価 方 法	授業内レポート、単位修了試験、受講態度		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト：伊藤健次編『保育に生かす教育心理学』（株）みらい 2008 年 講師より資料を配布する。		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	幼児の心理学	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	伊丹 稔博
時 間 数	前期：15 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	心理学の知識を学ぶことを通して、保育において心理学の視点を行かせるようになることを目的とする。人はどのように学習を行っていくのかということや、どのように人間関係を築いていくのかを学び、また、心理学における様々な研究から得た知見を学ぶことで、保育の実践の中で工夫や適切な援助ができるようになることを目指す。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	保育士・幼稚園教諭		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	自身の経験や身近な事象と照らし合わせながら、心理学の基礎知識を修得する。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	子どもの発達、学習行動、動機づけ、知的能力の発達、パーソナリティ理論など心理学の基礎的知識を獲得し、教育評価、発達障がい、愛着理論、児童虐待など保育現場で役に立つ知見を学ぶ。		
到 達 目 標	心理学の基礎知識や様々な理論について理解し、文章で説明できる力をつける。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（80%）、提出物（レポートの提出、課題の提出）（15%）、出欠状況（5%）		
テキスト・副読本	実践に活かす保育の心理学 原田喜充 2023 年		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	健康（指導法）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	石田 博也
時 間 数	15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	・「健康」に関する保育内容 （①就学前段階の運動あそびの指導・援助、②基本的生活習慣の形成およびその援助、③健康、安全に関する保育活動）および方法を実践的に探究していくために必要な基礎的な知識、技能を獲得する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	領域「健康」の内容について学び、様々な文献などから課題を探究し、生かすことができる。「健康」という情報収集の精度を上げるようになってほしい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していく。教育学、保育学、心理学、医学の諸領域による知見を理解することに加え、新聞やインターネットなど情報から現代的な課題を探究することによって実践的な課題を再確認していく。		
到 達 目 標	・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。		
成 績 評 価 方 法	毎授業後の感想文 授業中に提示する課題レポート 単位修了試験（グループ発表・個人ワーク）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	参考文献：内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針（H29 年公示）』チャイルド本社 厚生労働省編『保育所保育指針解説書（H30 年 3 月）』フレーベル館 英和辞典（和英辞典）：各自で準備		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	人間関係（指導法）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	近大本学教師
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	・ 子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。 ・ 保育内容の領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・ 子どもの人間関係の発達と保育者の援助の意図を理解する。 ・ 子どもの人との関わりを育む指導について、模擬保育への取り組みを通して計画、実践、考察することができる。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	幼稚園教諭二種免許状・保育士資格		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	・ 発達における人間関係の広がりや深まりの理解及び保育士の関わり方、支援の仕方 ・ 各年齢の「友だちとの関り」の事例からどのような援助、支援をすることが有効かグループセッションを行う。 ・ 個の内面理解の大切さと、その対応の仕方、関わり方を理解し習得してほしい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	・ 子どもの発達と人間関係 ・ 保育における子ども同士の関係と保育者の関わり方、集団づくり ・ 保育の質と保育者、子どもとの関係 ・ 多文化共生社会における幼児教育、保育の課題		
到 達 目 標	・ 保育内容 5 領域は明確に切り分けられるものではなく、相互に重なりをもって日々総合的に保育がなされていることの理解。 ・ 「人と関わる力」の育成は、保育の質及び保育者の関わり方の影響が大であることの理解		
成 績 評 価 方 法	終末試験（80%）、確認テスト（20%）		
テキスト・副読本	幼児と人間関係 ―保育者を目指す― 同文書院		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科			1 年
科 目 名	教育原理	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目	
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小坂田 佐弓	
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間			
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	教育の意義、目的、歴史、実践などの基本的知識を学び、教育の基礎概念を習得することを目的とする。さらに、現代の教育、子どもをめぐる問題について考える。			
目指す検定・資格				
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	講義だけでなく、グループディスカッションや発表を通して、教育について自分なりの考えを持たせる。事後学習として、各自工夫してノートまとめを行い、授業内容を理解しておいてほしい。 教育に関して自律的に思考するために、新聞やテレビなどのニュースを通して、現代の教育問題や社会の動きに関心を持つことを期待する。			
そ の 他				
	前 期			
授 業 の 概 要	教育に関して自分なりに思考するために必要な基礎的な知識を学ぶ。まず教育の意義、目的を理解し、思想や制度の歴史的変遷について学ぶ。次いで、日本における教育と諸外国における教育について理解する。さらに、現代社会における教育の課題を知り、連携による教育・保育について考える。			
到 達 目 標	・ 教育についての基礎的な知識を習得している。 ・ 子どもの教育の歴史的・制度的な変遷を理解している。 ・ 現代の日本社会の教育問題について意識を向けている。 ・ 「教育とは何か」という問いに、自分なりの考えを持っている。			
成 績 評 価 方 法	学期末試験（80%）、授業における発言や態度（15%）、出席（5%）			
テキスト・副読本	『保育のための教育原理』 垂見直樹・金俊華・大間敏行・三木一司 著 ミネルヴァ書房			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	造形表現（指導法）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	伊藤 智里
時 間 数	15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、表現領域のねらい及び内容を理論と実践を通して理解する。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること			
そ の 他	・スクーリング課題の制作工程表の作成、計画に沿った材料の準備を事前に行っておく。（予習） ・予習内容に沿ってスクーリングで使用する教材、道具の準備を行い、スクーリング当日持参する。 ・演習後、演習後記（自分の意見・課題の活用）を記述する。		
	後 期		
授 業 の 概 要	・造形表現の技法、身近な素材から教材への応用など、常に他分野と共存する幼児の生活を学び、具体的な指導場면을想定して保育を構想する。造形表現の基礎教養を各課題と体験を通し資料配布と定期試験を行うことで教授する。 ・実践的な学びをするために、表現技法などを体験的に学ぶ。		
到 達 目 標	・幼稚園教育において、育みたい資質、能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「表現」のねらい及び内容について、背景となる造形表現と関連させ理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。 ・授業で制作した作品は、実習や保育現場での参考になる為、作品を保管し、制作方法と感想や作品写真で記録する。		
成 績 評 価 方 法	・材料準備、講義ごとの課題 ・受講態度		
テキスト・副読本	講師より資料の配布を行う		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	音楽表現（指導法）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	井上 美樹
時 間 数	15 時間	実務経験：音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	音楽表現の観点から幼児の発達や学びの過程を理解し、実践的な指導法を身につけるために必要な基礎的な知識、技能を習得する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	音楽表現を体験的に学ぶ。保育・教育の現場において実践してほしい。		
そ の 他			
授 業 の 概 要	「表現」領域の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」について、保育者の指導・援助の在り方、その方法を検討する。		
到 達 目 標	幼稚園教育・保育の領域「表現」に関する「ねらい」及び「内容」、全体構造を理解する。		
成 績 評 価 方 法	模擬授業の発表内容、指導計画の記述内容、その他課題の記述内容、単位修了試験（発表）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年 3 月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド社） 「音楽 ピアノ教本」（近畿大学九州短期大学通信教育部） 「子どもの歌 100 選」 絵本の活用		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	環境(指導法)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	池田 満之
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	[科目の目的] 子どもたちに影響を与える環境の現状・問題について説明することができる。現在の環境で子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、それはすなわち「自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育」といえ、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導することができる。様々な観察を通して、観察力・集中力を身につけることができる。 [講義内容] 領域「環境」について解説し、子どもたちを取り巻く環境の現状や問題について考察する。また、具体的生活体験を重視した保育指導力育成のための実践的授業や環境教育を視野に入れた授業を実施する。動物園実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養う。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の部分を読みこんでおくこと。図書館やインターネットで関連文献に目を通すこと。普段の生活の中で目にする自然に目を向け、観察する習慣を身につけてほしい。		
そ の 他			
授 業 の 概 要	領域「環境」について解説し、子どもたちを取り巻く環境の現状や問題について考察する。また、具体的生活体験を重視した保育指導力育成のための実践的授業や環境教育を視野に入れた授業を実施する。 動物園実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養う。		
到 達 目 標	子どもたちに影響を与える環境の現状・問題について説明することができる。現在の環境で子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、すなわち自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導することができる。様々な観察を通して、観察力・集中力を身につけることができる。		
成 績 評 価 方 法	講義内で指定した課題の提出物（80%）、グループ発表の内容（10%）、授業参加態度（10%）。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	参考文献保育内容「子どもと環境」（同文書院） 幼稚園教育要領・保育所保育指針の原本の冊子		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	言葉（指導法）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	高岡 純子
時 間 数	15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	人間にとって重要な役割を果たす「言葉」について、保育・教育で活用する。教材とともに体験的に理解し、保育者として子どもの関りに必要な方法を学び、実践できる。		
目指す検定・資格	保育士・幼稚園教諭		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	主体性をもって体験的に学び、実践できる力を身につける。実践的な学びに主体的に参加し、実践力の向上を期待したい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	幼稚園教諭 2 種免許状、保育士資格の必修科目であると共に、保育科卒業必須科目である。 『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』における保育内容・言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもとの関り方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身につけることを目指す。 講義形式・グループワーク、実践事例を実施する。		
到 達 目 標	①人間にとっての言葉（言語）の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる。 ②子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関り方を身につけ、実践できる。 ③保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導を実践できる。		
成 績 評 価 方 法	発表、レポート、受講態度		
テキスト・副読本	参考文献：厚生労働省『保育所保育指針解説書』2018 年 フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018 年 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2017 年 フレーベル館 言葉（指導法）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	児童文化	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 後期 ・ 通年	担 当 教 員	高月 香帆里
時 間 数	前期：15 時間 / 後期： 時間	実務経験： 幼稚園、保育園での勤務経験を活かし、具体例を交えながら解説し、児童文化についての知識を深められるよう指導する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	児童文化は、大人が子どものために作ったり、子ども達自身が作ったりしながら伝承していく。文化全般の中で子ども達に関わる領域の文化であるが、明確に区別できない部分も多い。しかし、現在の学校教育偏重の子ども達の生活の中で、学校教育にない重要な部分の学習の機会を得る児童文化の領域の存在意義は大きい。 この児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握することで、実践的な指導ができるようになることを目標とする。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	遊びの重要性について、実例を交えてレポートとして書くことができる。 科目試験の設題を参考文献や授業内容などを踏まえて、まとめることができるようになってほしい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	・ レポートの作成を通して、遊びの重要性を理解する。 （遊びの意義、重要性、書き方など） ・ 12 項目に分けて児童文化において大切なものを学ぶ。		
到 達 目 標	・ 近畿大学九州短期大学におけるレポート・科目試験に合格すること		
成 績 評 価 方 法	期末試験（80%）、提出物（15%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	児童文化（近畿大学通信教育部）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科			1 年
科 目 名	児童文化（スクーリング）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目	
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小坂田 佐弓	
時 間 数	前期：15 時間 / 後期： 時間			
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	児童文化は子どもを取り巻く生活全般に渡るものであり、その中心には遊びがある。児童文化の中心的課題である遊びを通して、子どもの成長と文化とのかかわりについて学ぶ。また、現代の子どもの遊びや伝承遊び、絵本やおもちゃなどの児童文化財に触れ、保育実践の際の留意点に気づき、体得していくことを目的とする。			
目指す検定・資格	特になし			
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	・ 講義と製作・演習を行う。 ・ 製作・演習に意欲的に参加すること。			
そ の 他				
	前 期			
授 業 の 概 要	児童文化とは何かを歴史を追いながら考えるとともに、現在の児童文化について理解する。そして保育での実践につなげていくことを学ぶ。			
到 達 目 標	・ 子どもたちにとって望ましい児童文化や児童文化財について考えることができる知識を習得している。 ・ 遊びやさまざまな児童文化財の重要性を理解し、保育現場における実践を構想できる。			
成 績 評 価 方 法	受講態度 授業内で提示する課題を総合的に判断する。			
テキスト・副読本	『児童文化』（近畿大学通信教育部）			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	幼児と言葉	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 通年	担 当 教 員	高岡 純子
時 間 数	前期： 時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために専門的事項に関する知識を身に付ける。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	保育士・幼稚園教諭		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	保育、教育の基礎事項を学びながら、現場で実践するための力を養う。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	・『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』などに挙げられる 5 領域の中の「言葉」を元に基礎事項を学び、実践的な技術、知識を身につける。		
到 達 目 標	・人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。 ・言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 ・児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（70%）、確認テスト（20%）、授業態度（5%）、出席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』授業の中で必要に応じて参照する。		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	幼児と人間関係	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小坂田 佐弓
時 間 数	前期： 時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	・ 子どもたちが他者との関係の中で健全に自己を育み、他者と協働しつつ、幸せに生きていく力の一つに「異なる他者と協働する力」を、領域「人間関係」から学ぶ。 ・ 領域「人間関係」の理解から友だちとの関り、保育士や大人との関り、すべて人との関わりの中で支え合っていることの理解。 ・ 自分と異なる他者との関りをより豊かにするために、幼児教育で大切にしたい観点及び保育士の視点。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	・ 発達における人間関係の広がりや深まりの理解及び保育士の関わり方、支援の仕方 ・ 各年齢の「友だちとの関り」の事例からどのような援助、支援をすることが有効かグループセッション。 ・ 個の内面理解の大切さと、その対応の仕方、関わり方を理解習得してほしい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	・ 子どもの発達と人間関係 ・ 保育における子ども同士の関係と保育者の関わり方，集団づくり ・ 保育の質と保育者、子どもとの関係 ・ 多文化共生社会における幼児教育、保育の課題		
到 達 目 標	・ 保育内容5領域は明確に切り分けられるものではなく、相互に重なりをもって日々総合的に保育がなされていることの理解。 ・ 「人と関わる力」の育成は、保育の質及び保育者の関わり方の影響が大であることの理解		
成 績 評 価 方 法	終末試験（95%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	幼児と人間関係 ―保育者を目指す― 同文書院		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	幼児と環境	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期： 時間／後期：15 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、身近な環境との関わりについて具体例を示しながら指導する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	幼稚園教育要領や保育所保育指針に沿って、乳幼児期における身近な環境との触れあいについて、具体的な事例を取り上げながら解説していく。また、乳幼児期の発達におけるさまざまな環境に意義や役割について詳しく学ぶ。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	保育士・幼稚園教諭		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	環境の意義や役割についての学びを通して、保育に生かす。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	第1章 保育の基本と保育内容 第2章 子どもの「環境とかかわる力」の発達を支えているもの 第3章 子どもの「環境とかかわる力」をどう理解するか 第4章 領域「環境」と保育方法 第5章 領域「環境」と保育の実際 第6章 領域「環境」と実践上の留意点 第7章 領域「環境」の変遷		
到 達 目 標	幼稚園教育要領や保育所保育指針に沿って、乳幼児期における身近な環境との触れあいについて、具体的な事例を知る。また、乳幼児期の発達におけるさまざまな環境の意義や役割について学ぶ。		
成 績 評 価 方 法	科目試験（100%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	保育内容「環境」 柴崎正行・若月芳浩 編		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科			1 年
科 目 名	社会福祉	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目	
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	中原 崇	
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間	実務経験：社会福祉士・精神保健福祉士・保育士の国家資格を持ち、これまで児童・家庭福祉、教育の領域で活動していた経験から、学生に専門職としての援助の在り方を講義する。		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	社会保障や社会保険等についての知識を深め、子どもだけでなく家族が抱える問題にも対応できる力を身に付ける。また、ソーシャルワークについての知識も学び、保育士としての援助技術を高める。			
目 指 す 検 定 ・ 資 格	保育士・幼稚園教諭			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	教科書及びレジュメを配布しての講義となる。 必要に応じて、課題検討やグループ討議等を行う。			
そ の 他				
	前 期			
授 業 の 概 要	社会福祉の基礎知的な知識を身につけると共に、社会保険についての基礎知識を深める。 家族が抱える問題についての見識を深めると共に専門的な援助技術を理解する。			
到 達 目 標	社会保険及び国による子育て支援の取り組みを理解する。 （年金保険、労働保険、医療保険の保障内容を理解している） 家族が抱える経済的な負担及び、身内の介護問題についての理解を深める。			
成 績 評 価 方 法	定期試験（90%）、課題・受講態度（10%）			
テ キ ス ト ・ 副 読 本	コメディカルのための社会福祉概論			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科 1 年		
科 目 名	保育原理	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期：30 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保育の意義について深く理解することを目的とし、乳幼児の特質や発達の特徴、保育思想と児童観の変遷、近代保育施設・制度の創設と発展、我が国における幼稚園・保育所の成立と変遷、保育の内容・方法・計画・評価などについて多面的に学ぶ。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	保育に関する基礎知識を確実に習得し、文章で説明する力を身につけてほしい。		
そ の 他			
	前期		
授 業 の 概 要	・ 乳幼児の特質と保育の意義 ・ 保育思想と児童観の変遷 ・ 近代保育施設・制度の創設と発展 ・ わが国における幼稚園・保育所の成立と変遷 ・ 保育の目的 ・ 保育の内容・方法・計画・評価 ・ さまざまな保育と課題		
到 達 目 標	・ 保育の意義について理解する。 ・ 乳幼児の特質や発達の特徴を理解する。 ・ 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ・ 幼稚園と保育所の保育目的と規定を理解する。 ・ 保育の内容と方法の基本を理解する。 ・ 自分なりに保育に関する見識をもつ。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（80％）、提出物（15％）、出欠（5％）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	『保育原理』近畿大学九州短期大学通信教育部 プリント配布		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科			1 年
科 目 名	社会的養護 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目	
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	中原 崇	
時 間 数	前期：時間 / 後期： 30 時間	実務経験：社会福祉士・精神保健福祉士・保育士の国家資格を持ち、これまで児童・家庭福祉、教育の領域で活動していた経験から、学生に専門職としての支援の在り方を講義する。		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	社会的養護についての概要を理解し、保育士としての専門性を高める			
目 指 す 検 定 ・ 資 格	保育士			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	教科書及びレジュメを配布しての講義となる。 必要に応じて、課題検討やグループ討議等を行う。			
そ の 他				
	後 期			
授 業 の 概 要	社会的養護の概要 専門職としての支援の在り方			
到 達 目 標	社会的養護の仕組みについて理解が出来ている。 社会的養護を要する児童について専門職としてどのように支援をするのか、倫理や制度、専門技術等をふまえた上での支援のあり方を理解出来ている。			
成 績 評 価 方 法	定期試験（90%）、課題・受講態度（10%）			
テ キ ス ト ・ 副 読 本	社会的養護 I			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	劇あそび（指導法）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	石田 博也
時 間 数	15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	子どもの持つ豊かな感性や表現を引き出すための指導力、援助法を体得することを目的とする。 自分の身体を確認し、身体運動による表現の特質を知り、イメージの動きのかかわりを体得し、創造性を豊かにする。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	領域「表現」の「ねらい」「内容」を理解する。実践及びレポートの作成を通して体験的に理解を深める。主体的に、学ぶ姿勢の大切さを理解することを期待する。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び（ごっこ、劇あそび）の内容と意義について学習する。 伴う表現活動（歌う、演奏する、踊るなど）の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。 毎時間、復習ノートの作成を行う。（感想レポートの作成）		
到 達 目 標	・ 領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。 ・ 子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。 ・ 子どもの表現を育てうる実践力と指導法を身に付ける。		
成 績 評 価 方 法	発表（30%）、グループ発表（40%）、レポート（30%）		
テキスト・副読本	内閣府・文科省・厚労省『幼保連携型こども園教育、保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』（チャイルド本社） その他、参考資料として適宜資料を配布する。		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	教育課程総論	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	鳴坂 圭介
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	教育課程は、入園から修了に至る園生活のすべてである。本科目では、幼児期の教育と教育課程についての基礎的・基本的な理念を学び、教育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解することを目的とする。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	教育課程を作るための基礎知識として乳幼児期の発達の理解、幼児の姿の捉え方を学ぶとともに、幼稚園・保育所・認定こども園の基本的性格について理解する。そのうえで、指導計画の意義を踏まえ、実際に指導案を作成する足掛かりをつかんでほしい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	・ 乳幼児期の特質 ・ 基礎となる幼児期の姿の捉え方 ・ 教育課程の意義と基準 ・ 目的・目標・ねらい・内容とは何か ・ 教育課程の編成と指導計画の作成		
到 達 目 標	・ 教育課程の意義や目的を理解する。 ・ 幼児期の特質を踏まえ、教育課程のあり方に対する理解を深める。 ・ 教育課程の編成及び指導計画の作成に対する理解を深める。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（80％）、受講態度（15％）、出欠状況（5％）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	『あたらしい幼児教育課程総論』第二版 岸井勇雄・横山文樹 著		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	教育方法論	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小坂田 佐弓
時 間 数	前期： 時間 / 後期：30 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	『教育方法論』では、これからの社会を担う子どもに求められる能力、資質を育成するために必要な教育の方法、技術に関する基礎的な知識、技能を身につけることを目的とする。 幼稚園や保育所の役割を考えながら、具体的な援助や指導の方法について考える。		
目指す検定・資格	保育士・幼稚園教諭		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	講義形式とする。受講生の理解度などを考慮して、授業内容や計画を変更する場合がある。事後学習として、各自工夫してノートまとめを行い、授業内容を理解しておいてほしい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	幼稚園や保育所の生活の中で、幼児一人ひとりが喜びと充実感を伴った学びの体験をし、成長する喜びを実感しながら発達に必要な体験を積み重ねていけるような幼児教育・保育の方法について考える。まず「環境を通しての保育」「遊びを通しての指導」という保育の方法的基盤について学ぶ。子どもたちが発達に必要な体験を積み重ねていける保育形態について理解し、計画と評価について検討する。さらに、これからの幼児教育・保育における情報機器及び教材について知る。		
到 達 目 標	・ 幼児教育における教育方法の原理、方法や技術に関する基礎知識を習得している。 ・ 幼児教育の方法に関する基礎理論を理解している。 ・ 知識と理論を踏まえ、保育現場における実践を構想できる。 ・ 情報機器や教材の適切な活用に関する基礎的な能力を身につけている。		
成 績 評 価 方 法	学期末試験（80%）、授業における発言や態度（15%）、出席（5%）		
テキスト・副読本	『幼児教育・保育のための教育方法論』 垂見直樹・池田竜介 編著 ミネルヴァ書房		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	教職概論	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	鳴坂 圭介
時 間 数	前期：時間 / 後期： 30 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	教師論は教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目的としている。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	さまざまな教育観にふれ、教師とはどうあるべきかを学び、自分なりの教師像を作ることができるようにする。また、現代社会の現状を把握し、その中で生きていく子ども達への保育者としての援助方法や保護者への対応を身につける。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	・ 教師のあるべき姿 ・ 三つの教育観について ・ 教師の仕事とは ・ 教師の専門性と指導力について ・ 日本における教師の歴史 ・ 現代社会の子どもの仲間集団について ・ 国際化、情報化における師の役割について ・ 園を支える人々とその仕事 ・ 教師の研修とその意義について		
到 達 目 標	・ 三つの教育観について自分の言葉で説明できる。 ・ 日本の教師の歴史について理解を深める。 ・ 教師の使命、求められる資質能力について自分の言葉で説明できる。 ・ 現代社会の子どもの現状とそれに合わせた保育者としての援助について理解する。 ・ これからの時代に向けた新たな教師の役割について理解する。 ・ 自分なりの理想の教師像をもつことができる。		
成 績 評 価 方 法	筆記試験（80%）、課題レポート提出（15%）、出席（5%）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	保育内容総論	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期： 時間 / 後期：15 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、保育目標や子どもの発達、保育内容の基礎を身につけ、日常生活をとして子どもが成長発達することを具体的に指導することから実践に活かす知識、技術を養う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	・ 幼稚園教育要領や保育所保育指針、保育・教育要領における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて、保育内容の全体的な構造を理解することを目的とする。 ・ 幼稚園・保育園における子どもの生活と保育内容を具体的な実践例を通して学ぶ。 ・ 子どもの発達と遊びの特質を踏まえ、保育の計画とその展開について、教材研究や指導計画の立案などを通して学ぶ。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	幼稚園教諭二種免許状資格取得・保育士資格取得		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	・ 講義形式のほかグループワーク、教材研究・指導計画立案をする。 ・ 「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて、保育内容の全体的な構造を理解する。 ・ 教材研究や指導計画を立案し実践力を付ける。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	・ 保育の全体構造について ・ 保育所保育指針（幼稚園教育要領、保育・教育要領）、全体的な計画について ・ 保育内容と子どもの活動の理解 ・ 養護と教育が一体的に展開される保育 ・ 子ども理解と子どもの内面を読み取る保育者のスキル（子どもの主体性を尊重する保育） ・ 指導計画立案の考え方・書き方の基本		
到 達 目 標	・ 「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて、保育内容の全体的な構造を理解することを目的とする。 ・ 保育の基本を踏まえた子ども理解と、それらに基づいて保育内容の展開を考える基礎的能力を身に付ける。		
成 績 評 価 方 法	試験（70%）、レポート（20%）、授業態度（10%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	保育所保育指針、保育・教育要領、幼稚園教育要領 保育内容総論（中央法規）		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	音楽Ⅰ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	井上 美樹
時 間 数	前期：30 時間 / 後期：30 時間	実務経験：音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日々の保育において音楽を生かした遊びや活動を行うために必要な、ピアノや声楽の基本、音楽理論を学ぶ。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	学生によってピアノ等の経験が違うので、個別指導の時間を取り、無理なく演奏技術が身につけられるようにする。 子どもに音楽の楽しさを伝えられる技術を積極的に学んでほしい。		
そ の 他			
	前期	後期	
授 業 の 概 要	ピアノ演奏や声楽の基本、楽譜を読み解くために必要な音楽理論を学ぶ。	曲の内容に合った表現、人前でも自信を持って弾いたり歌ったりできる演奏技術、表現方法を学ぶ。	
到 達 目 標	ピアノ初心者でも両手奏ができ、簡単な弾き歌いができる。 音楽理論の基本を身に付ける。	楽譜を短時間で読めるようにし、弾き歌いのレパートリーを増やす。	
成 績 評 価 方 法	確認テスト（65％）、期末テスト（20％） 授業態度（10％）、出席（5％）	前期と同様	
テキスト・副読本	「音楽（ピアノ教本）」 「音楽（声楽教本）」 近畿大学九州短期大学 「子どものうた 100」 チャイルド本社 プリント	前期と同様	

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	ビジネス実務Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美・キャリア
時 間 数	前期： 時間／後期：59 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。 そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容とする。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	・ 自分の強みを知り、効果的に自分を伝える方法を学ぶ。 ・ 社会人としてマナーの必要性を理解させるため、業界での必要とされる人材を意識させ、ロールプレイングを取り入れ、実践させていく。		
そ の 他	時事問題に触れる時間を、積極的に取り入れる。		
	後 期		
授 業 の 概 要	・ 2回の就職対策に向け、自己分析、履歴書作成、業界分析を行う。 ・ 社会人としてのマナーを身に付け、実践していく。		
到 達 目 標	・ 明確な個人目標設定ができ、それに向かって努力ができる。 ・ マナー・礼儀を身に付け、社会人としての判断ができる。		
成 績 評 価 方 法	前期試験（95％）、出欠席（5％）		
テキスト・副読本	① ビジネスマナー基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター） ② 就職活動ワークブック（日本能率協会マネジメントセンター） ③ プリント		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	造形表現	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期： 15 時間 / 後期： 15 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、幼児期の身体発達や幼児画の発達の特徴について理解を促す。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	子どもの身体的発達と幼児画の発達過程の特徴について理解し、子ども一人ひとりの発達に応じた援助の必要性について学び、成長を見守れる保育者を目指す。 演習課題については、作品制作を通して自己を表現する楽しさを知り、幼児の造形の表現理解を深め、子どもとの創作活動に役立つ様々な素材や表現方法の基礎知識と造形指導の実践的な習得を目指す。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	基本となる子どもの発達の理解と実践が伴うよう、自己表現や成長について学び、自分を大切にすること、他者の表現や存在も尊重できる姿勢を育む。		
そ の 他	表現技法および発達のレポートを作成する。		
	前 期	後 期	
授 業 の 概 要	・ 年間課題レポート、作品の説明（授業オリエンテーション） ・ 幼児教育における美術表現技法についてレポート作成 ・ 子どもの絵画表現について（発達過程）	・ 美術表現技法の体験および作品の作成 ・ 造形表現、身体的発達それぞれの発達を年齢ごとにまとめ、幼児教育における造形表現を理解する。（レポートの作成をする） ・ 色相環の理解と作成	
到 達 目 標	・ 幼児教育における美術表現技法（12 種類）について理解し、レポートにまとめることができる。 ・ 絵画表現について特徴を理解する。	・ 造形での発達、身体的発達を理解し、レポートにまとめることができる。 ・ 美術表現技法を最低 3～4 種類使用し、作品を完成できる。 ・ 色相環を作成できる。	
成 績 評 価 方 法	出席（5%）、レポート課題（30%） 造形課題（作品）（20%）、前期試験（45%）	出席（5%）、後期試験（30%）、 レポート課題（50%）、 美術表現体験課題提出（15%）	
テ キ ス ト ・ 副 読 本	造形表現（指導法）（近畿大学九州短期大学） 保育所保育指針 幼稚園教育要領 図画工作（近畿大学九州短期大学）	造形表現（指導法）（近畿大学九州短期大学） 保育所保育指針 幼稚園教育要領 保育園・幼稚園実習完全マニュアル改訂版 （成美堂出版） 図画工作（近畿大学九州短期大学） 発達心理学（ミネルヴァ書房）	

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		1 年
科 目 名	図画工作 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	高月 香帆里
時 間 数	前期： 時間 後期：15 時間	実務経験：幼稚園、保育園での勤務経験を活かしながら、造形活動に必要な知識と技能を解かりやすく実践的に指導する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	子どもの造形教育に関わる上で必要な知識、技能の習得をするとともに、適切で充実した援助、教育を行うことを目的とする。 さらに、製作や表現する楽しさを味わいながら、保育・教育の現場に必要な基礎を身につけ、様々な造形活動（制作活動）に活かすことを目的とする。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	子どもとの製作活動における基礎を身につけ、実践で活かす。		
そ の 他			
	後期		
授 業 の 概 要	・ 図画工作を学ぶ目的について。 ・ はさみ、のりの正しい扱い方をはじめとした用具、教具、素材の特性を知る。 ・ 製作マットの作成をする。 ・ 誕生表の製作 ・ ペープサート作成 ・ リースの製作 ・ 帽子の製作 ・ 自己紹介紙芝居の製作		
到 達 目 標	・ 制作の基本を身につけ、簡単な制作を行うことができる。 ・ 製作活動における注意点や丁寧さ、教材の特性等の基礎を理解する。 ・ 製作活動において発想力・創造力を引き出すことの大切さを体験的に学習する。 ・ グループ活動を通して、お互いに力を合わせ協力して制作を行う。		
成 績 評 価 方 法	出欠席（5%）、提出物（50%）、作品ノート（30%）、受講態度（15%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	図画工作（近畿大学九州短期大学）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	身体表現 I—1	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期：15 時間 / 後期： 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、実践的な表現遊びやリズム遊びを指導する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保育、幼児教育の現場で使える手遊びやリズム遊びを学び、スキルとして身につける。また、子どもの発達に合わせたリズム遊びや表現遊びを提供できるようにする。そして、保育者としての「表現力」を身につけることを目標とする。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	手遊びやリズムあそびなど、自ら実践しながら覚えて、いつでもできるようにしておく。また、恥ずかしがらずに思い切り表現したり、全身を使った身体表現したりし、「表現力」を身につけるため、人前で発表する機会を多くつくる。遊戯を自ら作り上げていけるようになってほしい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	・ 身体表現とは何か。(理論と実践) ・ 手遊びを覚える。 ・ リズムあそびを覚える。 ・ グループ毎に振り付けを考え、練習し、発表をする。		
到 達 目 標	・ 学んだ手遊び、リズムあそびに関して、全て覚え、自分なりに堂々と表現することができるようにする。 ・ 振り付けを考える力を身につける。		
成 績 評 価 方 法	レポート (30%)、記録書 (35%)、実技試験 (30%)、出席 (5%)		
テキスト・副読本	・ 阿部直美のふれあい手あそび歌あそび 101 阿部直美著 ・ プリント対応		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	身体表現 I－2	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期： 時間 / 後期：15 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、実践的な表現遊びやリズム遊びを指導する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保育、幼児教育の現場で使える手遊びやリズム遊びを学び、スキルとして身につける。また、子どもの発達に合わせたリズム遊びや表現遊びを提供できるようにする。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	手遊びやリズムあそびなど、自ら実践しながら覚えて、いつでもできるようにしておく。また、恥ずかしがらずに思い切り表現したり、全身を使った身体表現したりし、「表現力」を身につけるため、人前で発表する機会を多くつくる。遊戯を自ら作り上げ、実践力を向上してほしい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	・ 保育所や幼稚園の発表会や運動会の DVD を考察する。 ・ 身体表現 I－1 で学んだ基礎の復習を行う。 ・ 保育所、幼稚園の運動会での遊戯をグループワークで考え、実践する。		
到 達 目 標	・ 振り付けを作る基礎の表現方法を身につける。 ・ 運動会の遊戯の選曲の仕方や見せ方、振り付け、幼児への指導方法について実践的なスキルを身につける。		
成 績 評 価 方 法	レポート（35%）、実技試験（30%）、記録書（30%）、出席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ プリント ・ 阿部直美のふれあい手あそび歌あそび 101 阿部直美著		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科 1 年		
科 目 名	保育教養 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美 伊丹 稔博
時 間 数	前期： 15 時間 / 後期： 15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保育者を目指して学ぶ上で、専門的な教育を受ける準備段階として、質の高い保育の専門性と豊かな人間性についての基礎を学ぶ。 保育業界でも社会で求められる文章は、共有認識がほとんどない相手に対して、自分の意見・考えを、理解・納得・共感してもらうことを目指す。 保育現場における様々なニーズに応える知識、技能の習得を目指す。また、その知識や技能を応用し実践できる力を養うことを目的とする。 また、得た知識を他科目と連動しながら自己意識を向上し、保育への魅力を感じ、保育者としての将来を描くことを目的とする。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	文章読解・作成能力検定 3 級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	保育者としての専門性、人間性を身に付けると同時に、保育への魅力や将来像を描き、意識を高めてほしい。		
そ の 他			
	前 期	後 期	
授 業 の 概 要	・学生が『文章カステップ』の問題を解き、解説を実施することで書く力を養う。 ・文章の基本を学び、文章力を身に付ける。 ・保育者とはなにか、保育を目指すものとしての専門性について学ぶ。	・資格取得をして働くものとして（知識習得、実践を通して身に付ける） ・保育現場において必要となる知識、技能のうち裁縫や洗濯、掃除といった、家庭でも実施する内容についてのニーズに応えられるようになる。	
到 達 目 標	・文章読解、作成能力検定合格。 ・保育を学ぶ上での基礎知識と心構えを身に付ける。 ・豊かな人間性、専門性の重要性を知り、実践する。	・家政の基礎を学び実践、応用することができる。 ・身に付けた知識、技能を元に自分の将来像（保育者としての姿）について考える力を養う。	
成 績 評 価 方 法	出席（5%）、前期試験（85%）、提出物（10%）	出席（5%）、後期試験（65%）、提出物（30%）	
テ キ ス ト ・ 副 読 本	基礎から学べる！文章カステップ文章検 3 級対応 文章検公式テキスト 3 級 保育者への扉 建帛社	家事検定（家事検定実行委員会） 小学校家庭科概論（ミネルヴァ書房） これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉 わかば社	

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1 年		
科 目 名	食育 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	高月 香帆里
時 間 数	前期： 時間 / 後期：15 時間	実務経験：幼稚園、保育園での勤務経験を活かし、具体例を交えながら解説することで、食育の重要性や基礎知識の理解と実践力の育成を図る。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	近年、社会の変化と共に子どもを取り巻く食事の状況は変化を続けている。そこで、保育、幼児教育の現場に携わる上で、子どもを中心としながらも保護者とともに食のあり方を知り、実践に生かすための基礎知識を習得することを目的とする。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	食育基本法をはじめとした、社会全体の取り組みや子どもを取り巻く環境の変化などの基礎学習をすることで、現状の理解と実践的な取り組みを知る。 また、自分自身の食について考えることを通して、子どもとの生活に活かしてほしい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	食育基本法をはじめとした、近年の食に対する変化を理解する。 自分自身の食事状況を考え、今後の生活に生かす。 子ども、保護者と共に食について考えられるための基礎力を身につける。 ・食育基本法の重要条文 ・食育の必要性 ・旬の食材と保育 ・食育の基本指導 など		
到 達 目 標	近年の食の状況を知り、今後の実習や保育の中で生かす。自分自身の食について考えることで、生活習慣を見直し、健康的な身体づくりが出来る。		
成 績 評 価 方 法	後期試験（65%）、提出物（30%）、出席（5%）		
テキスト・副読本	食育基本法 子どもの食と栄養（北大路書房） プリント		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科1年		
科 目 名	保育所実習指導 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期： 時間 / 後期：30 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、保育実習における学びの重要性や心構えなど基礎知識、技術を指導する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	・ 保育の知識や技能の学びを深め、実際に子どもの前に立ち保育実践に生かせることを目的とする。 ・ 保育実習の意義、目的を理解し、保育士としての資質（子どもの内面を読み取る）保育の基盤となるところを学ぶ。 ・ 保育にあたっては指導計画があり、子どもの心身の発達を保障する計画を立案することを学ぶ。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	・ 0歳児から就学前までの年齢にあった部分指導（中心保育）の保育案を立案、指導計画を書く。 ・ 立案した指導案に基づき実践演習をし、他者からの意見、感想を聞き、再度構成、修復し演習を深める。 ・ 実習において、堂々と振舞い、言動や行動に責任をもち職員として、子どもと関われるようになることを期待する。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	・ 「保育の理念」から保育園の保育の目的について「全体的な計画」 ・ 「子どもの最善の利益」を保障する保育の意味と 0歳から就学までの子どもの心身の発達について。その上で保育実習の意義、目的と保育実習指導の意識づけ。 ・ 何のために指導案が必要であるかの理解に基づき、指導案作成上のポイント ・ 0歳児から就学児までの子どもの発達を捉えた保育立案と指導案作成 ・ 手作り教材を制作し、その指導案作成、実践演習		
到 達 目 標	・ 保育士として必要な資質、人としての人間性を理解し、実習の心構えを身につける。 ・ 保育所実習における手遊びや部分指導、中心保育の計画、立案、指導案作成ができるようになる。		
成 績 評 価 方 法	単元レポート（80%）、実技実践（15%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 保育実習の手引き（岡山県保育士養成協議会） ・ 保育園・幼稚園の実習完全マニュアル（成美堂出版） ・ フォトランゲージで学ぶ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画（萌文書林）		